

第67回 明治大学中央図書館企画展示

協力：明治大学史資料センター

# 明治大学と

# 作家たち

伊藤左千夫 夏目漱石  
上田敏 菊池寛  
子母澤寛 萩原朔太郎  
山本有三 里見弴  
小林秀雄 大岡信  
倉橋由美子 唐十郎  
山田詠美 天童荒太  
羽田圭介・・・



■会 期：2017年3月25日(土)～5月8日(月)

■休 館：3月31日(金)

■会 場：明治大学中央図書館 1F ギャラリー(入場無料)

■時 間：図書館の開館中は、観覧いただけます。

図書館の開館情報はホームページでご確認ください。

■URL： <http://www.lib.meiji.ac.jp>

■お問い合わせ：明治大学中央図書館

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

TEL 03-3296-4250

# 明治大学と作家たち

明治法律学校が創立されて今年で137年目となります。明治・大正・昭和・平成の4つの時代をおし、明治大学はさまざまな分野にわたり、多くの優れた人材を世に送りだしてきました。

明治大学中央図書館では、教職員・校友の著作を広く収集し、「明大文庫」と名付けています。また、和泉図書館には近・現代の作家の初版本や明治大学ゆかりの作家たちの文学作品などを収集した「日本近代文学文庫」があります。

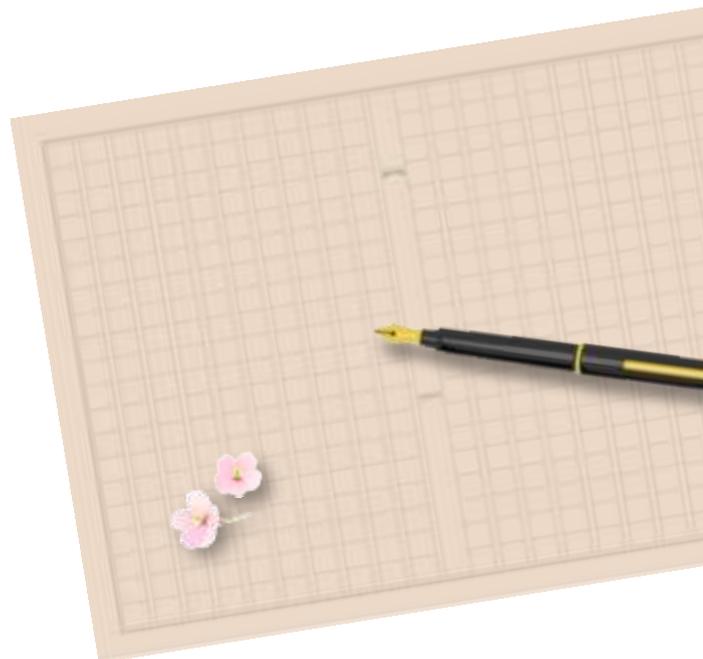
本展示では、「明治大学と作家たち」と題して、明治14(1881)年の建学以来、本学の教壇にたった著名な作家たち、そして、教室から巣立っていった作家たちを紹介すると共に、これらの文庫の中から、明治大学ゆかりの作家たちの作品を選んで展示・紹介します。

この展示が、明治大学の歴史の一部であり、かつ、近代から現代へのささやかな文学史としてもとらえることができれば幸いです。

最後に、この展示会を開催するにあたり、多大なご協力を賜りました大学史資料センターに、感謝の意を表します。

## —展示構成—

- I. 明治法律学校時代
- II. 明治40年前後の教壇
- III. 明治・大正時代の明治大学出身作家
- IV. 戦前・戦後の教壇
- V. 理工学部と芥川賞作家
- VI. 昭和・平成の明治大学出身作家
- VII. 明治大学で教べんをとった夏目漱石



## I. 明治法律学校時代

明治 14 (1881) 年 1 月、まだ 30 歳たらずの青年法律家であった、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操によって「明治法律学校」が創立された。この時代の入学者の中には、志半ばで中退した者も少なくないが、後に詩人、小説家として近代文学史にその名を記す伊藤左千夫や、樋口一葉に影響を与えた兄・樋口泉太郎などが在籍していた。

---

いとうさちお  
**伊藤左千夫** 元治元 (1864) 年～大正 2 (1913) 年 48 歳

明治 14 (1881) 年 4 月入学、同年 12 月退学。

設立直後の明治法律学校に入学したが、眼病のためわずか 9 か月で中退を余儀なくされた。農業を手伝い、また牛乳搾取業を営むかたわら、明治 33 (1900) 年より正岡子規に師事する。明治 36 (1903) 年『馬酔木』を創刊し、根岸派の代表歌人として多くの短歌、歌論を発表。『馬酔木』廃刊の明治 41 (1908) 年には『アララギ』を創刊し、後進の育成に努め、島木赤彦、中村憲吉、斎藤茂吉らを育てた。明治歌壇に新風をふきこんだ一方で、子規から学んだ写生文で名作『野菊の墓』や『隣の嫁』などの小説も発表した。歌集に『左千夫歌集』などがある。

ひぐちせんたろう  
**樋口泉太郎** 元治元 (1864) 年～明治 20 (1887) 年 24 歳

作家・樋口一葉 (1872～1896) の実兄。

明治 18 (1885) 年 2 月入学、明治 20 (1887) 年 6 月退学。

樋口家の長男として生まれ、明治法律学校に入学したが、2 年 4 か月後に中退。同年 12 月に肺結核のため 24 年の短い生涯を閉じた。

2 年後には父親も逝去し、二兄と姉が家を出ていたことにより、一葉は 17 歳で家督を相続したが、生活は苦しかった。兄・泉太郎への思慕を日記にも残している。明治 28 (1895) 年より代表作の『にごりえ』『たけくらべ』『十三夜』を発表し、高い評価を受けた。しかし、その後体調を崩し、明治 29 (1896) 年 11 月肺結核のため兄と同じ 24 歳で死去した。泉太郎、一葉とも明治大学和泉キャンパス横の築地本願寺和田堀廟所に眠っている。

## II. 明治 40 年前後の教壇

1907（明治 40）年前後の明治大学予科では、夏目漱石、上田敏、笹川臨風、佐々醒雪、登張竹風、内海月杖、大町桂月など錚々たる近代文壇の作家や評論家たちが教壇に立っていた。

---

なつめ そうせき

**夏目漱石**

慶応 3（1867）年～大正 5（1916）年 49 歳

明治 37（1904）年 11 月～39（1906）年 1 月在職。

実名金之助。帝国大学文科大学（現・東京大学文学部）英文科卒。イギリス留学後、第一高等学校、東京帝国大学講師を務めるかわら、明治 37（1904）年から明治大学講師として文学部、高等予科に籍を置いて、英語、英文学、文学論の授業を担当。在職中の明治 38（1905）年から 39（1906）年にかけて『吾輩は猫である』を雑誌『ホトトギス』に連載していた。『坊っちゃん』『草枕』『三四郎』『門』などの大作があり、森鷗外とともに近代文学の巨匠とたたえられている。漱石は錦華小学校（現お茶の水小学校）に通学していた。そのため小学校敷地に『吾輩は猫である 名前はまだ無い』と刻まれた石碑が建てられている。

※VII 明治大学で教べんをとった夏目漱石（ケース D）で展示

うえだ びん

**上田敏**

明治 7（1874）年～大正 5（1916）年 41 歳

明治 37（1904）年 9 月～41（1908）年 10 月在職（推定）。

夏目漱石と同時代に教鞭をとっていた。帝国大学文科大学（現・東京大学文学部）英文科卒。東京師範学校講師、東京帝国大学講師、京都帝国大学教授を歴任し、英文学を講じる。ヨーロッパ各国の文芸思想の紹介につとめ、フランス象徴主義の日本への移植をはかった。在職中の明治 38（1905）年に不朽の訳詩集『海潮音』を刊行、以後の詩歌壇に大きな影響を与えた。

ささかわりんふう

**笹川臨風**

明治 3（1870）年～昭和 24（1949）年 78 歳

明治 40（1907）年 12 月～大正 10（1921）年在職。

歴史家、文学者、美術評論家。帝国大学文科大学（現・東京大学文学部）国史科卒。上田敏の紹介で宇都宮大学から明治大学に移籍した。著作『明治還魂紙』で当時の明治大学の様子を伝えている。ほかに『日本帝国史』『支那小説戯曲小史』『日本絵画史』などの著作がある。

### Ⅲ. 明治・大正時代の明治大学出身作家

「明治法律学校」は、明治 36（1903）年、専門学校令により「明治大学」へと改称される。その後大正 9（1920）年 4 月、大学令により明治大学は「大学」として認可された。総合大学としての明治大学が成立し、新たな時代を迎える。この時代には、わずか 4 か月であるが菊池寛が在籍し、時代小説家として著名な子母澤寛、佐々木味津三を輩出した。

---

きくちかん  
**菊池寛**

明治 21（1888）年～昭和 23（1948）年 59 歳

明治 42（1909）年 10 月法学科入学、43（1910）年 2 月退学。在籍 4 か月。

上京後の明治 41（1908）年より東京高等師範学校入学退学、明治大学法学科入学退学、第一高等学校入学退学など大学を転々とし、最後は京都帝国大学を卒業。文芸春秋社を創立し、『文芸春秋』を創刊、斬新な編集手法と内容で当時のジャーナリズムに多大な衝撃と影響を与えた。また芥川賞、直木賞、菊池寛賞を設け、新人発掘に功績を残した。『父帰る』『真珠夫人』『藤十郎の恋』など作品多数。

しもさわかん  
**子母澤寛**

明治 25（1892）年～昭和 43（1968）年 76 歳

大正 3（1914）年専門部法科卒業。

実名梅谷松太郎。彰義隊残党の御家人の孫として生まれ、その回顧談を聞いて育つ。在学中優秀だった松太郎は、国文学の教師、内海月丈に法律の道に進むことを期待されたが、それに背く形で郷里に帰り、後に再度上京して新聞記者となった。侠客ものや股旅もの、御家人を主人公にした小説を発表。著作に『新選組始末記』『勝海舟』など。昭和 37（1962）年幕末明治時代を背景にした一連の作品で菊池寛賞を受賞し、歴史小説・時代小説に多大な功績を残した。

ささきみつぞう  
**佐々木味津三**

明治 29（1896）年～昭和 9（1934）年 37 歳

大正 7（1918）年政経科卒業。

大学時代『大観』の記者となり、『葦毛の馬』『馬を殴り殺した少年』などを発表し、文壇から注目される。昭和 3（1928）年『右門捕物帖』を、昭和 4（1929）年『旗本退屈男』を連載して好評を得る。本作は度々映画やドラマ化され、高い人気を得ている。以後多くの大衆小説を発表し、代表作に『風雲天満双紙』などがある。

## IV. 戦前・戦後の教壇

戦前・戦後の明治大学には、近現代日本文壇史を彩る著名な文学者たちが集っていた。山本有三、今日出海、里見弴、横光利一、岸田國士、豊島与志雄、舟橋聖一、小林秀雄、阿部知二、唐木順三、平野謙、中村光夫、本多秋五、山本健吉、大岡信などが籍を置いていた。きらびやかな教授陣の薫陶を受け、後に作家の道に進んだ卒業生も多いであろう。

---

はぎわらさくたろう

**萩原朔太郎** 明治 19 (1886) 年～昭和 17 (1942) 年 55 歳

昭和 9 (1934) 年 4 月から病に倒れる直前の 17 (1942) 年 4 月まで文科専門部文芸科の講師をつとめた。日本韻文研究の授業を担当。元々は親友の室生犀星が教える予定だったが、犀星が緊張のあまり 1 回きりでやめてしまい、代打として出講したのがきっかけだそうである。大正 6 (1917) 年処女詩集『月に吠える』を刊行して詩壇の注目を集めた。後に詩集『青猫』『氷島』などを刊行。

やまもとゆうぞう

**山本有三** 明治 20 (1887) 年～昭和 49 (1974) 年 86 歳

昭和 7 (1932) 年明治大学に文科専門部が設けられ、初代文芸科長に就任。昭和 12 (1937) 年 4 月退職。昭和 9 (1934) 年に『女の一生』の印税を寄付している。大正 9 (1920) 年『生命の冠』が明治座で上演され、劇作家としての地位を確立する。大正 15 (1926) 年『生きとし生けるもの』を朝日新聞に連載し、小説家としても認められた。以後『真実一路』『路傍の石』などを発表、国民的作家となる。昭和 10 (1935) ～12 (1937) 年『日本少国民文庫』(16 巻) を編集刊行し、児童読物に新機軸を開く。戦後は貴院議員に勅選され、昭和 22 (1947) 年参院議員に全国区から当選し、任期満了まで務めた。

さとみとん

**里見弴** 明治 21 (1888) 年～昭和 58 (1983) 年 94 歳

昭和 7 (1932) 年から 13 (1938) 年文科専門部文芸科在職。文芸論、小説研究などを担当。武郎、生馬との“有島三兄弟”の末弟だが、母の実家を継いで山内姓を名乗る。生馬や志賀直哉の影響を受け、東京帝大英文科中退後の明治 43 (1910) 年に雑誌『白樺』の創刊に参加。『多情仏心』はじめ『安城家の兄弟』『かね』など数々の告白的自伝小説を残した。『極楽とんぼ』は戦後の代表作。日本芸術院会員となり、昭和 34 (1959) 年に文化勲章を受章。

きしだくにお

## 岸田國士

明治 23 (1890) 年～昭和 29 (1954) 年 63 歳

昭和 7 (1932) 年から昭和 15 (1940) 年在職。文科専門部文芸科で演劇研究、戯曲研究などを担当。昭和 12 (1937) 年 2 代目文芸科長に就任、翌 13 (1938) 年、文芸科は文学科と演劇映画科の 2 科に分科される。

東京帝大仏文科選科卒。大正 8 (1919) 年から 12 (1923) 年まで渡仏し、演劇の勉強をする。以後、演劇、小説、翻訳の分野で幅広く活躍。戯曲としては『牛山ホテル』『浅間山』などがあり、小説では『由利旗江』『暖流』などがあり、翻訳では『にんじん』などがある。また昭和 12 (1937) 年に文学座を創立。演劇指導者として、演出家としても新劇の育成に多大な貢献をした。大政翼賛会の文化部長を務めたため、戦後公職追放となる。昭和 28 (1953) 年岸田演劇賞が創設され、没後、岸田国士戯曲賞となって今日に引継がれている。

こぼやしひでお

## 小林秀雄

明治 35 (1902) 年～昭和 58 (1983) 年 80 歳

千代田区猿樂町に生まれ、昭和 7 (1932) 年 4 月の文科専門部開設時に講師となり、文学概論、文芸思想史、日本文化研究などを担当。昭和 13 (1938) 年には教授となり、昭和 21 (1946) 年 8 月に辞任。

昭和 4 (1929) 年『改造』の懸賞評論で『様々なる意匠』が二席に入選し、以後評論家として活躍。昭和 7 (1932) 年川端康成らと『文学界』の創刊に参加。戦時中は、日本の古典文学に沈潜し、『無常といふ事』『平家物語』などのエッセイを執筆。戦後は、芸術論や音楽論、さらに文明批評なども手がけた。昭和 27 (1952) 年『ゴッホの手紙』で読売文学賞を、昭和 33 (1958) 年『近代絵画』で野間文芸賞を、昭和 53 (1978) 年『本居宣長』で日本文学大賞を受賞した。我が国近代批評の確立者、文壇の大御所といわれ、“批評の神様”“言葉の魔術師”とも評された。また大学入試で度々出題されて“受験の神様”とも呼ばれた。

こんひでみ

## 今日出海

明治 36 (1903) 年～昭和 59 (1984) 年 80 歳

昭和 7 (1932) 年 4 月の文科専門部開設時に着任。

大正 14 (1925) 年東京帝国大学仏文科に入学。辰野隆に師事し、同窓には小林秀雄、中島健蔵、渡辺一夫、三好達治、佐藤正彰らがいた。同年村山知義、舟橋聖一らと河原崎長十郎を座主とする心座を、昭和 5 (1930) 年蝙蝠座を起こして演出を担当する傍ら、『文芸都市』『作品』『文学界』に抛り評論や随筆を発表。戦後の昭和 25 (1950) 年に『天皇の帽子』で直木賞を受賞。昭和 43 (1968) 年文化庁が誕生すると初代長官に就任した。以後国際交流基金理事長、国立劇場会長と新設の文化行政団体の長を歴任し、我が国の文化行政に足跡を残した。

ふなはしせいいち

## 舟橋聖一

明治 37 (1904) 年～昭和 51 (1976) 年 71 歳

昭和 7 (1932) 年 4 月の文科専門部開設時から昭和 45 (1970) 年まで在職。

大正 5 (1916) 年戯曲『白い腕』を『新潮』に掲載して文壇にデビュー。その後明大教授をつとめながら小説を書き始め、昭和 8 (1933) 年阿部知二らと雑誌『行動』を創刊、行動主義を唱えて『ダイヴィング』を発表、注目を集める。代表作に『芸者小夏』『花の生涯』など。『新・忠臣蔵』は平成 11 (1999) 年 NHK 大河ドラマ「元禄繚乱」の原作。相撲愛好家で長く横綱審議委員会委員長をつとめた。

ひらのけん

## 平野謙

明治 40 (1907) 年～昭和 53 (1978) 年 70 歳

昭和 32 (1957) 年より 53 (1978) 年、定年の 70 歳まで文学部に在職。

実名平野朗。昭和 7 (1932) 年東大在学中にプロレタリア科学研究所に入り、10 (1935) 年頃から本格的に文芸評論を書く。昭和 21 (1946) 年埴谷雄高、荒正人らと『近代文学』を創刊。以後、“政治と文学論争”、“芸術と実生活”“純文学論争”などを展開し、独特の評論をする一方、昭和 30 (1955) ～43 (1968) 年『毎日新聞』の文芸時評を担当し、昭和 38 (1963) 年『文芸時評』で毎日出版文化賞を、昭和 50 (1975) 年『さまざまな青春』で野間文芸賞を受賞。晩年の『「リンチ共産党事件」の思い出』は自身が遭遇したことを記し、大きな波紋をよんだ。

なかむらみつお

## 中村光夫

明治 44 (1911) 年～昭和 63 (1988) 年 77 歳

昭和 24 (1949) 年より 56 (1981) 年、定年の 70 歳まで文学部に在職。名誉教授。

実名木庭一郎。東京帝国大学学生時代から文芸批評に手を染め、昭和 11 (1936) 年『二葉亭四迷論』で文学界賞を受賞し、新進評論家として認められた。戦後も『風俗小説論』をはじめ多く作家論を発表。昭和 38 (1963) 年小説『わが性の白書』や戯曲『パリ繁昌記』『汽笛一声』を書き、話題となった。昭和 42 (1967) 年『贗の偶像』で野間文芸賞受賞。

おおおかまこと

## 大岡信

昭和 6 (1931) 年～

昭和 40 (1965) 年明治大学助教授、45 (1970) 年教授となり、62 (1987) 年まで在職。

昭和 63 (1988) 年東京芸術大学教授。

東京大学卒業後の昭和 28 (1953) 年、読売新聞社に入社。外報部でフランス語を担当。『折々のうた』で菊池寛賞を受賞。日本ペンクラブ会長。詩集『春 少女に』『水府』など。

## V. 理工学部と芥川賞作家

昭和 24 (1949) 年に工学部、平成元 (1989) 年 4 月に理工学部が設置される。明治大学に奉職していた作家は数多くいるが、理工学部には小島信夫、三浦清宏、堀江敏幸ら芥川賞受賞作家が教壇に立っていた。中でも小島信夫は、作家として確固たる地位を確立しながら、定年の 70 歳 (昭和 60 年) まで明治大学に奉職していた。

こじまのぶお

**小島信夫**

大正 4 (1915) 年～平成 18 (2006) 年 91 歳

昭和 16 (1941) 年東京大学文学部卒。復員後は郷里の岐阜県で教師を経て昭和 29 (1954) 年工学部専任講師、36 (1961) 年教授、70 歳で定年退職。

『小銃』『吃音学院』『星』などで 3 度芥川賞候補となり、昭和 30 (1955) 年『アメリカン・スクール』で第 32 回芥川賞を受賞。同時期に芥川賞を受賞した安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作らと“第三の新人”と呼ばれたが、グループ最年長の長兄格で、作風も他の作家たちと異なり前衛的な要素が強く、私小説の体裁をとりながら小説自体のあり方を問う独自の文学世界に進んだ。昭和 40 (1965) 年学生結婚した妻を乳がんで亡くした経験を代表作となる長編『抱擁家族』に昇華させ、同作で第 1 回谷崎潤一郎賞を受けた。平成 13 (2001) 年 40 歳下の小説家・保坂和志との往復書簡『小説修業』を刊行、90 歳となった平成 17 (2005) 年には保坂との対談イベントを行い話題となった。亡くなる 5 か月前の平成 18 (2006) 年 5 月に長編『残光』を発表するなど、最晩年まで精力的に執筆活動を続けた。

みうらきよひろ

**三浦清宏**

昭和 5 (1930) 年～

昭和 27 (1952) 年東京大学を中退して渡米、サンノゼ大学、アイオワ大学で学ぶ。旅行会社、航空会社などを経て、昭和 38 (1963) 年に明治大学工学部の教員となった。『赤い帆』が第 72 回芥川賞候補となり、昭和 63 (1988) 年には『長男の出家』で第 98 回芥川賞を受賞した。ほかの作品に『立て、坐れ、めしを食え、寝ろ』『カリフォルニアの歌』など。平成 18 (2006) 年『海洞-アフルパロの物語』で日本文芸大賞受賞。

ほりえとしゆき

**堀江敏幸**

昭和 39 (1964) 年～

早稲田大学仏文科卒、東京大学大学院博士課程中退。東京工業大学専任講師、明治大学講師、助教授、教授を経て、早稲田大学文化構想学部教授。平成元 (1989) 年から 3 年半フランス政府給費留学生としてパリ第 3 大学博士課程に留学。平成 11 (1999) 年『おばらばん』で三島由紀夫賞、13 (2001) 年『熊の敷石』で第 124 回芥川賞を受賞。平成 24 (2012) 年より芥川賞選考委員。

## VI. 昭和・平成の明治大学出身作家

明治 14 (1881) 年の創立から今日に至るまで、明治大学は多くの人材を輩出してきた。その中から、様々な年代で作家・評論家として活躍してきた卒業生（中退者も含む）を紹介する。

---

とみたつねお  
**富田常雄**

明治 37 (1904) 年～昭和 42 (1967) 年 63 歳

昭和 2 (1927) 年商学部卒業。

明大卒業後、劇団心座の文芸部に参加し、多くの作品を脚色。昭和 17 (1942) 年に発表した『姿三四郎』が大ベストセラーとなり、翌 18 (1943) 年、黒沢明により映画化された。昭和 24 (1949) 年『面』『刺青』で第 21 回直木賞を受賞。以後大衆文学作家として活躍した。

こみやすすけ  
**五味康祐**

大正 10 (1921) 年～昭和 55 (1980) 年 58 歳

昭和 18 (1943) 年専門部文芸科本科入学、昭和 20 (1945) 年応召により除名。

昭和 28 (1953) 年『喪神』で第 28 回芥川賞受賞。明大関係者で初の芥川賞作家となった。同時受賞松本清張。以後、剣豪作家として第一線に立ち、『柳生連也斎』『柳生武芸帳』などを次々と発表。上京以来、練馬区で暮らし、大泉学園町の自宅近くの道路は“五味通り”といわれた。

くらはしゆみこ  
**倉橋由美子**

昭和 10 (1935) 年～平成 17 (2005) 年 69 歳

昭和 35 (1960) 年文学部文学科仏文学専攻卒業。同年大学院文学研究科入学後中退。

在学中の昭和 35 (1960) 年、大学新聞の懸賞小説に短編小説『パルタイ』を投稿し、学長賞を受賞。選者の明大教授であり、毎日新聞の文芸時評を担当していた平野謙から激賞され、鮮烈なデビューを飾る。同作は『文学界』に転載されて芥川賞候補にもなり、昭和 36 (1961) 年女流文学賞を受賞。同じく平野の激賞を受けて登場した学生作家の大江健三郎らと並び、新しい文学の登場を印象づけた。代表作に『聖少女』『スマキスト Q の冒険』『大人のための残酷童話』『アマノン国往還記』(泉鏡花賞) など。

からじゅうろう

## 唐十郎

昭和 15 (1940) 年～

昭和 37 (1962) 年文学部文学科演劇学専攻卒業。

昭和 37 (1962) 年“状況劇場”を結成。昭和 42 (1967) 年新宿・花園神社に“紅テント”を設置、以来基本的に“紅テント”での公演を行う。平成元 (1989) 年より唐組主宰。

昭和 44 (1969) 年『少女仮面』で岸田國士戯曲賞受賞。昭和 46 (1971) 年から小説家としても活躍。昭和 53 (1978) 年『海星・河童』で泉鏡花賞、昭和 58 (1983) 年『佐川君からの手紙』で第 88 回芥川賞を受賞した。

おちあいけいこ

## 落合恵子

昭和 20 (1945) 年～

昭和 42 (1967) 年文学部文学科英米文学専攻卒業。

昭和 42 (1967) 年文化放送にアナウンサーとして入社。深夜放送の『セイ！ヤング』で人気 DJ となる。人気を買われて女性誌に連載したエッセイ『スプーン一杯の幸せ』は 6 連作の単行本となり、ミリオンセラーに。昭和 49 (1974) 年退社して著述業に専念、『結婚以上』『A列車で行こう』などで合計 5 回直木賞候補になる。主著に『氷の女』『シングル・ガール』など。昭和 51 (1976) 年東京・原宿に児童書の専門店・クレヨンハウスを設立、画廊や小ホールも設置し、子供や女性の視点に立ったイベントや文化活動を展開している。

ふじわらともみ

## 藤原智美

昭和 30 (1955) 年～

昭和 54 (1979) 年政治経済学部卒業。

フリーライター、コピーライターを経て、30 歳すぎから小説を書き始め、『王を撃て』で小説家デビュー。平成 4 (1992) 年『運転士』で第 107 回芥川賞を受賞。他の作品に『モナの瞳』『「家をつくる」ということ』『「子どもが生きる」ということ』『暴走老人！』などがある。

なかざわ

## 中沢けい

昭和 34 (1959) 年～

昭和 58 (1983) 年政治経済学部 (二部) 卒業。

早くから文学書に親しみ、高校在学中に書いた小説『海を感じる時』で昭和 53 (1978) 年『群像』新人文学賞を受賞、60 万部のヒットとなった。以後、年 1 作のペースで『野ぶどうを摘む』『女ともだち』など発表。現代人の精神の様相を精緻に描く作品が多い。書評、メディア批評なども多数執筆している。

やまだえいみ  
**山田詠美**

昭和 34 (1959) 年～

昭和 56 (1981) 年文学部文学科日本文学専攻中退。

大学在学中から山田双葉の名で漫画をコミック誌に連載し、中退後も漫画家として活躍するが、表現手段としての漫画に物足りなさを覚え、漫画家の道を捨てる。昭和 55 年頃から小説を書き始め、60 (1985) 年第 1 作『ベッドタイムアイズ』で文芸賞を受賞。同作品は第 94 回芥川賞候補にもなった。昭和 62 (1987) 年『ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー』で第 97 回直木賞受賞。平成 15 (2003) 年芥川賞選考委員に。平成 17 (2005) 年『風味絶佳』で谷崎潤一郎賞を受賞。

てんどうあらた  
**天童荒太**

昭和 35 (1960) 年～

昭和 58 (1983) 年文学部文学科演劇学専攻卒業。

昭和 61 (1986) 年『白の家族』で野性時代新人文学賞を受賞。その後、映画の脚本を手掛けた後、天童荒太の筆名で小説に専念。平成 8 (1996) 年『家族狩り』で山本周五郎賞を受賞。平成 12 (2000) 年『永遠の仔』がベストセラーとなり、テレビドラマ化される。同作は日本推理作家協会賞受賞。平成 15 (2003) 年『家族狩り』を全面改稿し、『幻世の祈り』『遭難者の夢』などから成る 5 部作として刊行。他の作品に『孤独の歌声』『あふれた愛』などがある。

はだけいすけ  
**羽田圭介**

昭和 60 (1985) 年～

明治大学附属高校卒、平成 20 (2008) 年商学部卒業。

高校 3 年の平成 15 (2003) 年、小説『黒冷水』で第 40 回文芸賞を最年少の 17 歳で受賞し、同年作家デビュー。平成 20 (2008) 年より『走ル』『ミート・ザ・ビート』『メタモルフォシス』で芥川賞候補となり、27 (2015) 年『スクラップ・アンド・ビルド』で第 153 回芥川賞を受賞した。テレビ出演も多数あり。

## 「明治大学と作家たち」 出展リスト

No	作家名	書誌事項	請求記号	展示期間
<b>I 明治法律学校時代</b>				
<b>ケース A</b>				
1	伊藤左千夫	野菊の墓 / 伊藤左千夫著. -- 第3版. -- 靑山書店, 1910	MB100/IT3-2//W	
2		左千夫歌集 / 伊藤左千夫著 -- 春陽堂, 1920 (左千夫全集 第1巻)	MB100/IT3-3//W	4/4~
3	樋口一葉	たけくらべ / 樋口一葉著; 樋口邦子編. -- 博文館, 1918	MB100/HI3-5//W	
参考		たけくらべ: 眞筆版 / 樋口一葉著; [本編] -- 四方木書房, 1942 ※明治29年4月『文藝倶楽部』に発表した時の原稿の写真版	MB100/HI3-2//W	
参考		雑誌『文藝倶楽部』第2巻 第5編 ※一括初掲載	MB300/36//W	
<b>II 明治40年前後の教壇</b>				
<b>VII 明治大学で教べんをとった夏目漱石</b>				
<b>ケース D</b>				
4	夏目漱石	吾輩ハ猫デアル / 夏目漱石著; 上編, 中編, 下編. -- 大倉書店, 1905	MB100/NA36-15//W	
5		三四郎 / 夏目漱石著. -- 春陽堂, 1909	MB100/NA36-35//W	
参考		【新聞連載】三四郎 / 夏目漱石著; 上, 下. -- [私家版]	MB100/NA36-20//W	
6		それから / 夏目漱石著. -- 春陽堂, 1910	MB100/NA36-12//W	
参考		【新聞連載】それから / 夏目漱石著; 上, 下. -- [私家版]	MB100/NA36-23//W	
7		こゝろ / 夏目金之助著. -- 岩波書店, 1914	MB100/NA36-34//W	
参考		【新聞連載】心 / 夏目漱石著; 上, 下. -- [私家版]	MB100/NA36-22//W	
参考		【複製】漱石自筆原稿「心」 / 夏目漱石 [著]. -- 岩波書店, 1993.	099.2/10//W	
<b>ケース A</b>				
8	上田敏	海潮音 / 上田敏訳. -- 本郷書院, 1905	MB100/UE1-1//W	
9		牧羊神 / 上田敏著; [上田瑠璃子編]. -- 金尾文淵堂, 1920	MB100/UE1-2//W	
10	笹川臨風	明治還魂紙 / 笹川臨風著. -- 亜細亜社, 1946	090.4/S175-2//H	
11		支那小説戯曲小史 / 笹川臨風著. -- 東華堂, 1897	090.4/S175-4//H	
12		笹川臨風書簡 笹川臨風→三田村鳶魚 昭和7(1932)年	大学史資料センター	
<b>III 明治・大正時代の明治大学出身作家</b>				
<b>ケース A</b>				
13	菊池寛	心の王國 / 菊池寛著. -- 新潮社, 1919	MB100/KI2-22//W	
14		火華 / 菊池寛著. -- 大阪毎日新聞社, 東京日日新聞社, 1922	MB100/KI2-19//W	
15	子母澤寛	國定忠治 / 子母澤寛著. -- 改造社, 1933	MB100/SH27-3//W	
16		新選組始末記 / 子母澤寛著. -- 玄理社, 1949	090.4/S149-11//H	
17		勝海舟 / 子母澤寛著; 第1巻, 第2巻. -- 日正書房, 1946	090.4/S149-3//H	
18	佐々木味津三	旗本退屈男 / 佐々木味津三著. -- 博文館, 1931	MB100/SA1-5//W	
19		風雲天満双紙 / 佐々木味津三著. -- 春陽堂, 1932 (日本小説文庫 114)	MB100/SA1-2//W	
20		右門捕物帖 / 佐々木味津三著; 上, 下. -- 平凡社, 1934	MB100/SA1-4-1//W	
		ドラマ「右門捕物帖」, 映画「旗本退屈男」のポスター	大学史資料センター	

No	作家名	書誌事項	請求記号	展示期間
<b>IV 戦前・戦後の教壇</b>				
<b>ケースB</b>				
21	萩原朔太郎	詩集月に吠える / 萩原朔太郎著. -- 感情詩社, 1917	MB100/HA1-22//W	4/17~
22		月に吠える: 詩集 / 萩原朔太郎著. -- 第2版. -- アルス, 1922	MB100/HA1-15/B/W	~4/16
23		萩原朔太郎詩集 / 萩原朔太郎著. -- 第一書房, 1928	MB100/HA1-6//W	
24	山本有三	山本有三集. -- 筑摩書房, 1954. (現代日本文學全集 31)	090.4/Y79-2//H	
25		眞實一路: 全 / 山本有三著. -- 新潮社, 1936	MB100/YA9-6//W	
26	里見弴	三人の弟子 / 里見弴著. -- 春陽堂, 1917 (短篇小説 第2集)	MB100/SA25-14//W	~4/16
27		里見弴集 / 里見弴著. -- 春陽堂, 1929	MB100/SA25-10//W	4/17~
28	岸田國士	牛山ホテル: 戯曲集 / 岸田國士著. -- 第一書房, 1929	MB100/KI19-14//W	
29		にんじん / ジュウル・ルナアル作; 岸田國士譯. -- 限定版. -- 白水社, 1933	MB100/KI19-17//W	
30	小林秀雄	様々なる意匠 / 小林秀雄著. -- 改造社, 1934	MB100/KO1-15//W	~4/16
31		歴史と文學 / 小林秀雄著. -- 創元社, 1941. (創元選書 83)	904/4/C/H	~4/16
32		無常といふ事 / 小林秀雄著. -- 創元社, 1946	MB100/KO1-5//W	4/17~
33		壺 / 小林秀雄 [著]. -- 小林秀雄 [自筆], 1964.	MB100/KO1-18//W	4/17~
参考		この人を見よ: 小林秀雄全集月報集成 新潮社小林秀雄全集編集室編 新潮社 2015	新潮文庫こ-6-10	
34	今日出海	天皇の帽子 / 今日出海著. -- ジープ社, 1950	MB100/KO18-2//W	
35		比島從軍 / 今日出海著. -- 創元社, 1944	090.4/K191-1//H	
36	舟橋聖一	花の生涯 / 舟橋聖一著; [正], 續. -- 新潮社, 1953	MB100/FU10-8//W	
37		芸者小夏 / 舟橋聖一 [著]. -- 講談社, 2013. (講談社文芸文庫)	講談社文芸文庫 ふH4	
38	平野謙	藝術と實生活 / 平野謙著. -- 大日本雄辯會講談社, 1958	090.4/H9-7//H	
39		文芸時評 / 平野謙著. -- 河出書房新社, 1963.	090.4/H9-13//H	
40	中村光夫	中村光夫評論集: 二葉亭四迷論他二篇 / 中村光夫著. -- 芝書店, 1936	MB100/NA24-2//W	
41		鷹の偶像 / 中村光夫著. -- 筑摩書房, 1967	090.4/N1-28/B/H	
42	大岡信	春少女に / 大岡信著. -- 書肆山田, 1981	MB100/OO15-10//W	
43		折々のうた三六五日: 日本短詞型詞華集 / 大岡信著. -- 岩波書店, 2002	090.4/O5-60//H	
参考		【写真】創設時における文芸科教員の顔合わせ(昭和7年4月) 『明治大学文学部五十年史』より	090.2/56//H	
<b>V 理工学部と芥川賞作家</b>				
<b>ケースC</b>				
44	小島信夫	アメリカン・スクール / 小島信夫著. -- 新潮社, 2008 (新潮文庫)	新潮文庫 こ-7-1	
45		うるわしき日々 / 小島信夫著. -- 読売新聞社, 1997	090.4/K20-21//H	
46		ラブ・レター / 小島信夫著. -- 夏葉社, 2013 ※堀江敏幸執筆「あなた, 今までどこにいたの: 『ラブ・レター』に寄せて」	090.4/K20-36//H	
47	三浦清宏	長男の出家 三浦清宏著. -- 福武書店, 1988	090.4/M35-5//H	
48		海洞: アフンルパロの物語 / 三浦清宏著 文藝春秋, 2006.9	090.4/M35-8//H	
49	堀江敏幸	熊の敷石 / 堀江敏幸著. -- 講談社, 2001	090.4/H73-5//H	

No	作家名	書誌事項	請求記号	展示期間
50		雪沼とその周辺 / 堀江敏幸著 新潮社, 2003	090.4/H73-9//H	
<b>VI 昭和・平成の明治大学出身作家</b>				
<b>ケースC</b>				
51	富田常雄	姿三四郎 / 富田常雄著. -- 講談社, 1973 (大衆文学大系 28)	913/148//W	
52		春風秋雨 / 富田常雄著. -- 新潮社, 1957	090.4/T171-1//H	
53		富田常雄原稿『薔薇の手帖』	大学史資料センター	
54	五味康祐	喪神 / 五味康祐著 -- 文藝春秋, 1982 (芥川賞全集 第5巻)	913.608/35//H	
55		秘剣 / 五味康祐著. -- 新潮社, 1955 (小説文庫)	913.6/56//JO	
56		五味康祐原稿『遊び人伝奇』	大学史資料センター	
57	倉橋由美子	パルタイ/倉橋由美子 東京: 文芸春秋, 1960.8	MB100/KU13-1//W	
58		聖少女; 夢の浮橋 / 倉橋由美子著 東京: 新潮社, 1979	090.4/K42-118//H	
59		大人のための残酷童話 / 倉橋由美子著 新潮社, 1984	090.4/K42-3//H	
60	唐十郎	佐川君からの手紙: 舞踏会の手帖/ 唐十郎著. -- 河出書房新社, 1983	090.4/K29-1/B/H	
61		少女仮面; 唐版風の又三郎 / 唐十郎著. -- 白水社, 1997	090.4/K29-94//H	
62	落合恵子	結婚以上 / 落合恵子著. -- 中央公論社, 1982	090.4/O76-5//H	
63		おとなの始末 / 落合恵子著. -- 集英社, 2015 (集英社新書)	集英社新書 0809B	
64	藤原智美	運転士 / 藤原智美著. -- 講談社, 1992	090.4/F21-1//H	
65		暴走老人! / 藤原智美著 -- 文藝春秋, 2007	090.4/F21-2//H	
66		スマホ断食: ネット時代に異議があります / 藤原智美著 -- 潮出版社, 2016	007.3/570//S	
67	中沢けい	海を感じる時 / 中沢けい著. -- 講談社, 1978	090.4/N22-2//H	
68		時の装飾法 / 中沢けい著. -- 青土社, 2000	090.4/N22-11//H	
<b>ケースD</b>				
69	山田詠美	ベッドタイムアイズ / 山田詠美著 -- 河出書房新社, 1985	090.4/Y62-3//H	
70		ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー / 山田詠美著. -- 角川書店, 1987	090.4/Y62-4//H	
71		賢者の愛 / 山田詠美著. -- 中央公論新社, 2015	913/729//S	
72	天童荒太	永遠の仔 / 天童荒太著. ; [正], 續. -- 幻冬舎, 1999	090.4/T145-1//H	
73		悼む人 / 天童荒太著. -- 文藝春秋, 2008	090.4/T145-5/B/H	
74		ムーンナイト・ダイバー / 天童荒太著 -- 文藝春秋, 2016	913/838//S	
75	羽田圭介	スクラップ・アンド・ビルド / 羽田圭介著. -- 文藝春秋, 2015	090.4/H110-4//H	
76		メタモルフォシス / 羽田圭介著. -- 新潮社, 2014	090.4/H110-3//H	
77		コンテキスト・オブ・ザ・デッド / 羽田 圭介 講談社, 2016/11	090.4/H110-5//H	

「展示期間」欄が無印のものは全期間展示。

## 参考文献

- 明治大学史資料センター編『明治大学小史：「個」を強くする大学 130 年』人物編  
(学文社, 2011)
- 明治大学文学部五十年史編纂委員会編『明治大学文学部五十年史』  
(明治大学文学部, 1984)
- 明治大学文学部五十年史編纂準備委員会編『明治大学文学部五十年史資料叢書』1～12  
(明治大学文学部, 1978-1982)
- 『明治大学理工学部 50 年史：1944-1994(昭和 19 年～平成 6 年)』  
(明治大学理工学部, 1994)
- 『日本近代文学文庫展：和泉丘に文学の華ひらく』  
第 1 回明治大学和泉図書館企画展示パンフレット (明治大学図書館, 2012)
- 日外アソシエーツ「whoplus」人物情報データベース

### 明治大学と作家たち

(第 67 回 明治大学中央図書館企画展示)

協力: 明治大学史資料センター

編集: 中央図書館ギャラリー企画運営 WG

発行: 明治大学図書館

発行日: 2017 年 3 月 25 日 4 月 4 日修正